

# 大区画水田整備地区における圃場利用

## Usage of Agricultural Land in Large-sized Consolidated District

山路永司\*、山本若菜\*\*

YAMAJI Eiji\* and YAMAMOTO Wakana\*\*

### 1. 研究の目的

大区画水田の整備を行っている地区は数多くあるが、整備後にその大区画を活かした営農を行なうことは必ずしも容易ではない。中核的農家に受委託が行われる場合、協業が行われる場合などでは、大区画がそのまま活かされるが、個別農家による営農の場合は、換地処分によって集団化は進展するものの、区画規模と比べると営農の単位は小さいため、せっかくの大区画水田が細分化されることも多い。そこで、大区画水田が比較的大区画のまま利用されている地区に着目し、そこでの圃場利用を調査することにより、大区画としての利用の要因を明らかにする。

### 2. 地区とその特徴

調査地区としてA地区（埼玉県B市）を選定した。A地区では、低コスト化水田農業大区画圃場整備事業(1991～1999年)および21世紀型水田農業モデル圃場整備促進事業(同期間)が実施され、加えてB市の事業として、大規模農場モデル実証事業(当初1995～97年、99年まで延長)が実施されている。この実証事業では、推進体制の整備、地域営農計画の推進、新生産技術導入、担い手組織の設置と規模拡大、大型機械施設の導入などが図られた。その結果、Bファーマーズクラブ(農作業受託集団)への委託が進み、大区画水田が有効に利用されている。なお地区面積は56.0ha、受益者は174人である。

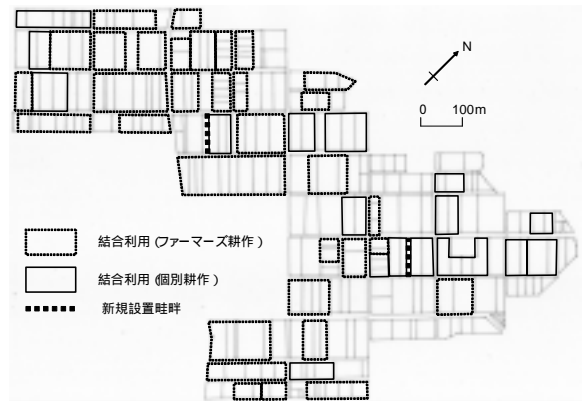


図1 所有区分と2004年の結合利用

本地区では、圃区をそのまま耕区とするという考え方を原則としている。1つの圃区は5～7人前後で所有され、登記上は区分されていて境界標があるが、畦畔は設けられていないところが多い。2004年夏作時には図1のように利用されていた。結合利用と記した範囲には畦畔は設置されていない。ファーマーズクラブへの委託であれば、畦畔のない大区画水田での作業の効率は高い。一方、個別農家の耕作であっても畦畔を設置しない場合もある(図中の実線枠)。このような利用形態の場合、同一品種・同一水管理が望まれる。

### 3. 事業の成果

各事業の終了年度である1999年度において、圃場整備事業および圃場整備促進事業の目標である1ha以上の圃区面積率、生産組織の受託面積率、2ha以上の生産団地面積率については、いずれも要件を満たしていた。

\* 東京大学大学院新領域創成科学研究科、Graduate School of Frontier Sciences, University of Tokyo

\*\* 日本工営株式会社 コンサルタント海外カンパニー 地域整備部、Nippon Koei Co., Ltd.

キーワード：大区画水田、圃場整備、作業受委託

実証事業においては、受委託の促進費が支給された。全作業を委託した場合、圃場整備区域外では、耕耘（１回目）に 6,000 円、耕耘（２回目）に 4,000 円、代掻き 2 回に 7,500 円などの料金がかかる。これらの料金は圃場整備済みの大区画部分ではやや安く設定されているが、実証事業実施期間中は、促進費により、農作業委託の農家負担金の軽減措置（作業委託費 60,900 円 52,000 円、資材料金 23,635 円は別途）が取られていた。

#### ４．受委託の進展状況

受委託の受け手である B ファーマーズクラブへの各種作業の受委託面積を、図 2 に示した。各年度ごとに受委託面積は変動していたため、受委託当初と近年の平均値を示した。代掻きは地区面積の 6 割弱、田植え・追肥・刈り取りは 4 割弱、耕耘は 3 割程度の受委託率であった。なお図に示した以外に、藁結束、畦畔草管理、均平の各作業も受委託されているが、いずれも 2 ha 前後と僅かであった。

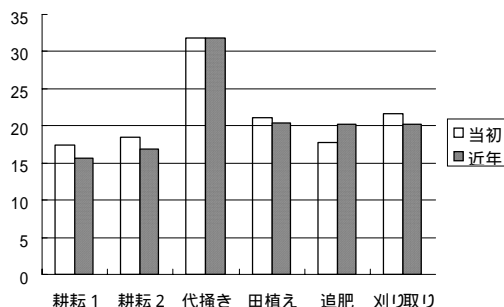


図 2 各種作業の受委託面積

#### ５．A 地区における受委託圃場の変化

1999 年と 2004 年の受委託圃場を、図 3 に示した。白色は両年とも受委託が行われている圃場であり、この間も継続して行われていた可能性が高い。網掛け部分は以前は受委託を行っていたが現在は行っていない圃場であり、これがかなりの面積に上っている。隣接圃場との関係で見ると、独立した場所での受委託が取りやめになったのが 9 カ所、隣接圃

場の受委託が継続しているにもかかわらず取りやめになったのが 3 カ所あった。

一方、黒塗り部分は、以前は受委託を行っていなかったが、現在は行っている圃場である。同様に隣接圃場との関係で見ると、独立した場所での受委託の開始は 1 カ所であるのに対し、隣接圃場の受委託地に接続して受委託が開始された箇所が 7 カ所あった。うち 4 カ所は、両側が受委託されていて、ここの受委託の開始により、圃区レベルで、あるいはそれに近いレベルで受委託が行われるようになった圃場である。このように、隣接地の影響は極めて大きいことが明らかになった。

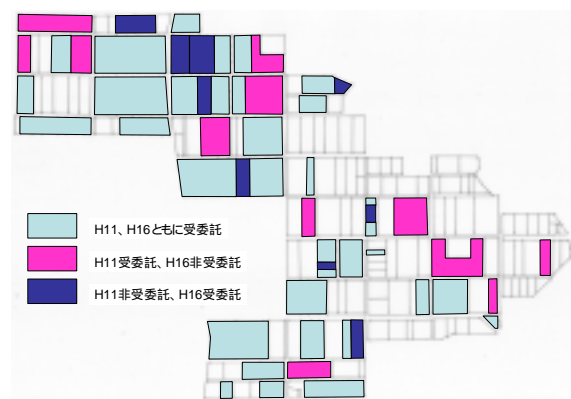


図 3 受委託圃場の変化(1999-2004)

#### ６．まとめ

大区画水田整備にあたっては、受委託の推進など耕作権の流動化・集中化も併せて行われているが、引き続き自作志向が強い地区では、整備事業以降の施策も重要である。本地区では圃区均平を原則に整備し、個別耕作と受託耕作とが共存しているが、本事例からは、以下のことが導き出される。

- ・圃区均平で整備を行う。
- ・受託する受け皿の整備・育成が重要。
- ・受委託を促進する仕組みや補助が重要。
- ・受委託の進展には、隣接状況が重要。

謝辞：A 地区の関係者には資料提供・ヒアリング等においてお世話になりました。付記して謝意を表します。